

大久保遺跡（第2次）発掘調査報告

～三重郡菰野町潤田所在～

2016（平成28）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は三重郡菰野町潤田に所在する大久保遺跡（第2次）の発掘調査報告書である。
- 2 本遺跡の調査は、平成26年度一般国道477号四日市湯の山道路整備（改築）事業に伴い、三重県教育委員会が三重県県土整備部から執行委任を受けて実施した。
- 3 調査の体制等は次の通りである。
調査主体 三重県教育委員会
調査担当 三重県埋蔵文化財センター
平成26年度（現地調査）調査研究1課
主査 萩原義彦 主査 伊藤 亘
平成27年度（報告書作成）
主査 萩原義彦 主査 伊藤 亘
- 4 調査機関及び面積は次の通りである。
調査期間 平成26年5月16日～平成26年9月16日

調査面積 【A地区】1,242㎡ 【B地区】896㎡ 【C地区】307㎡
合計 2,445㎡
- 5 調査にあたっては、地元の方々をはじめ、県土整備部・四日市建設事務所プロジェクト推進室高規格道路課・菰野町教育委員会の多大な協力を得た。
- 6 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が行い、本書の執筆・編集は各担当が行った。
- 7 報告書作成にあたって、縄文土器については田村陽一氏からご教示を頂いた。
- 8 当地は平面座標系第VI系に属しており、本書での方位は座標北を使用している。
なお、座標値は世界測地系2000に基づいて表示している。
- 9 遺跡地形図及び調査区位置図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て、同組合所管の「2006 三重県共有デジタル地図(数値地形図2500(道路縁1000))」を使用し、調整したものである。(承認番号：三総合地第93号)
- 10 当発掘調査の記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化センターで保管している。
- 11 土層及び遺物の色調は、日本色研事業株式会社発行の『新版標準土色帖（21版）』（1967年初版、1997年第19版）による。
- 12 本書では、以下のように遺構の略記号表記をしている。
SD：溝 SK：土坑 SB：掘立柱建物 SR：河道 Pit：ピット・柱穴
- 13 本書では、以下のように遺物の表記について統一している。
碗・埴・鉢 → 椀

本文目次

I 前言	1
1 調査に至る経過	1
2 文化財保護法に関する諸手続	1
3 調査経過	1
4 記録図面について	2
5 記録写真について	2
II 位置と環境	3
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
III 調査成果（遺構）	8
1 基本層序	8
2 検出遺構	8
IV 調査成果（遺物）	19
V まとめ	22
1 縄文時代	22
2 鎌倉時代	22
3 江戸時代	22

挿図一覧

第1図 遺跡位置図	第9図 B地区土層断面図
第2図 遺跡地形図	第10図 C地区遺構平面図
第3図 調査区位置図	第11図 C地区土層断面図
第4図 A地区土層断面図	第12図 土坑SK26実測図
第5図 A地区西半遺構平面図	第13図 土坑SK57実測図
第6図 A地区東半遺構平面図	第14図 掘立柱建物SB59実測図
第7図 B地区北半遺構平面図	第15図 出土遺物実測図
第8図 B地区南半遺構平面図	

表一覧

第1表 遺構一覧表

第2表 出土遺物観察表

写真図版一覧

写真扉 C地区表土掘削風景（北東から）	写真図版5 B地区完掘状況（西から）
写真図版1 A地区調査前風景（北東から）	B地区完掘状況（北東から）
A地区調査前風景（南西から）	写真図版6 A地区作業風景（南東から）
写真図版2 C地区調査前風景（北から）	C地区完掘状況（南東から）
C地区調査前風景（南から）	C地区完掘状況（北西から）
写真図版3 A地区完掘状況（南西から）	写真図版7 掘立柱建物SB59完掘状況（北東から）
A地区完掘状況（北東から）	土坑SK57半裁状況（南から）
写真図版4 B地区完掘状況（南から）	写真図版8 出土遺物
B地区完掘状況（北東から）	出土遺物

I 前 言

1 調査に至る経過

平成25年度より一般国道477号四日市湯の山道路整備（改築）事業が行われている。この事業に伴い三重県四日市建設事務所から事業地内に埋蔵文化財に関する照会を受けた。三重県埋蔵文化財センターは、周知の埋蔵文化財包蔵地である大久保遺跡が所在することを確認し、今後協議が必要なことを回答した。

協議の結果、事業地内において範囲確認調査を実施することとなった。範囲確認調査（面積138㎡）は、平成26年2月5日～2月6日にかけて実施し、調査坑から縄文時代と考えられる土器片や平安時代から鎌倉時代と考えられる土坑やピットなどの遺物・遺構が確認できた。これを受け当センターは保護措置の必要があると判断し、県土整備部道路建設課（四日市建設事務所プロジェクト推進室高規格道路課）に回答した。その結果、発掘調査を実施し、記録保存することとなった。

過去に本遺跡は、菰野町教育委員会が昭和57年都市計画街路菰野潤田線（現国道306号）新設事業に伴う第1次調査を昭和57年12月4日～昭和58年3月31日にかけて実施している。

2 文化財保護法に関する諸手続

文化財保護法（昭和25年法律第214号）および三重県文化財保護条例（昭和32年条例第72号）にかかわる諸手続は以下のとおりである。

○ 三重県埋蔵文化財保護条例第48条第1項

・平成26年1月14日付 四建第784号

三重県知事から三重県教育委員会教育長宛

「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」（大久保遺跡）

○ 文化財保護法第99条第1項

（埋蔵文化財センター所長から県教育委員会教育長宛）

・平成26年5月19日付 教埋第52号

○ 文化財保護法第100条第2項

・平成26年9月24日付 教委第12-4419号

三重県教育委員会教育長から四日市西警察署署長あて

「埋蔵文化財の発見について（通知）」

3 調査経過

2014（平成26）年

4月15日 調査前の各調査区の写真撮影を実施。

6月2日 A地区表土掘削開始。

6月6日 A地区表土掘削終了。近世の耕作溝を確認した。

6月9日 作業員投入。A地区壁面清掃など本格的に調査実施前の作業を行う。

6月10日 A地区遺構検出開始（西側から）。遺構は、ピットが多く、土坑も確認できた。

6月12日 A地区遺構検出の続き及び遺構掘削開始。遺構を掘削するものの遺物はほとんど出土していない。

6月13日 遺構検出時に縄文土器片が見つかる。中世を中心とした集落跡と考えていたが、縄文時代の集落跡とも考えられる。

6月16日 A地区遺構検出及び遺構掘削。

6月17日 A地区北西部分、縄文土器片出土。

6月18日 雨天、作業中止。

6月19日 A地区遺構掘削、近世の耕作溝を中心に遺物の出土は、ほとんどなし。

6月20日 前日に引き続き、耕作溝の掘削。

6月23日 A地区南東部で3間×2間の掘立柱建物1棟（S B59）を確認。

6月24日 A地区写真撮影のための遺構清掃。

6月25日 A地区全景写真及び掘立柱建物S B59の完掘状況写真撮影終了。

6月26日 A地区の土層断面図作成。

6月30日 A地区遺構平面図実測開始。併せて、C地区表土掘削開始。

7月1～2日 前日に引き続き、A・C地区で作業。

7月3日 A地区遺構平面図実測、C地区表土掘削終了。

- 7月4・7日 雨天、作業中止。
- 7月8日 C地区遺構検出、遺構掘削開始。
- 7月9日 C地区遺構検出及び遺構掘削。
- 7月10日 台風のため雨天、作業中止。
- 7月11日 台風通過後の状況報告。A地区遺構平面図実測終了。
- 7月14日 B地区表土掘削開始。C地区遺構検出及び遺構掘削。C地区でも近世の耕作溝を確認。
- 7月15日 B地区表土掘削。C地区遺構検出及び遺構掘削、大部分が終了。
- 7月16日 C地区遺構掘削終了。B地区表土掘削、通路部分を残し終了。
- 7月17日 C地区全景写真撮影のための遺構清掃。
- 7月18日 C地区全景写真終了。
- 7月22日 B地区遺構検出、遺構掘削開始。北半部分で。
- 7月23・24日 B地区遺構掘削。
- 7月29日 C地区土層断面図作成。B地区北半部分掘削終了。南半部分遺構検出。
- 7月30日 C地区実測終了。レベル入れを行う。B地区南半部分遺構検出及び遺構掘削。
- 7月31日 B地区遺構検出。近世の耕作溝多い。遺物は、ほとんど出土しない。
- 8月1日 B地区遺構掘削。全体の70%終了。土坑SK57土層断面図や写真撮影。
- 8月4日 引き続き、遺構掘削。
- 8月5日 B地区遺構掘削、ほぼ終了。
- 8月6日 C地区埋戻し完了。C地区は、国道306号線の直近のため、調査終了後埋戻しを実施した。
- 8月7日 B地区の通路部分の表土掘削。
- 8月8～11日 台風11号接近及び通過のため、作業中止。
- 8月11日 台風通過後の被害状況確認。B地区の竹谷川沿いの樹木が倒れる。
- 8月18日 盆休み後、B地区の写真撮影のための遺構清掃にかかる。
- 8月19日 前日に引き続き作業をしたものの、雨天のため、作業中止。
- 8月20日 再度、遺構清掃。
- 8月21日 B地区全景写真終了。
- 8月22日 現地説明会のための準備。
- 8月23日 現地説明会開催（92名の見学者）。
- 8月25日 B地区遺構平面図の実測準備。
- 8月26日 A地区レベル入れ。
- 8月27日 A地区レベル入れ終了、B地区遺構平面図実測開始。
- 8月28日 雨天、作業中止。
- 9月2・3日 B地区遺構平面図作成。
- 9月4日 雨天、作業中止。
- 9月5日 B地区遺構平面図作成。A地区断割り下層確認、土層断面実測。
- 9月8日 B地区遺構平面図実測終了、レベル入れにかかる。
- 9月9日 B地区レベル入れ終了。B地区断割り下層確認、土層断面実測。
- 9月10日 発掘調査にかかる作業が終了、撤収。
- 9月18日 現地、引き渡し。

4 記録図面について

第1次調査について、遺構検出段階でグリッド単位の略測図（遺構カード・縮尺1/40）を作成し、これをもとに縮尺1/100の遺構配置図を作成することで、調査区全体の遺構を把握した。遺構平面図・土層断面図・個別遺構図については縮尺1/20で手書き実測を行った。

なお、これらの図面に加えて現場の作業日誌も当センターで保管している。

5 記録写真について

遺構写真については、調査区全景写真は4×5判（モノクロ・カラーリバーサル）で撮影した。また調査前状況や調査の進捗状況、各個別遺構、調査区及び各遺構土層の撮影は35mm判（モノクロ・カラーリバーサル）で撮影した。使用したカメラはトヨフィード4×5判、35mm判ではニコンニューFM2である。またデジタル画像も適宜撮影した。

遺物写真については、デジタルカメラ（D300）で撮影した。（伊藤亘）

II 位置と環境

1 地理的環境

菰野町は、三重県の北部（県内では北勢地域という）に位置する三重郡の西方にある。北はいなべ市、南と東は四日市市、西は鈴鹿山脈を分水山脈とし滋賀県に接する。町の西部から北西部にかけて御在所岳（標高 1209m）や釈迦ヶ岳（標高 1092m）を中心とする鈴鹿山脈が南北に走る。東部は鈴鹿山脈を源流とする朝明川・三滝川とその間を流れる海蔵川によって形成された扇状地になっている。西部山地帯は鈴鹿国定公園に指定され、東麓には湯の山温泉がある。

大久保遺跡^①(1) は行政上、三重郡菰野町大字潤田に所在し標高約 76m の潤田集落の西方にある遺跡である。菰野町の南を流れる三滝川の左岸にあり同川の扇状地扇端近くに位置する。この扇状地内には巡見街道と呼ばれる国道 306 号が当遺跡を縦断するように南北を通っている。遺跡に隣接する竹谷川は海蔵川の支流で全長 7,450m である。竹谷川は本遺跡の所在地である潤田と音羽が起点となっている。本遺跡は、竹谷川右岸の自然堤防上に立地する。

2 歴史的環境

菰野町地内は、縄文土器片や石器が広く散布することが以前から知られていた。縄文遺跡はおもに江野・尾高・竹成・永井と呼ばれる高原や小高い丘に多い。中でも昭和 44 年、御在所岳東方の菰野富士といわれる小山の裾に広がり、本遺跡から南西方向に位置する江野高原で、全国的にも珍しい縄文草創期の矢柄研磨器 13 個をはじめ石鏃・石斧・土器片などが集中的に発見された西江野 A・B 遺跡^②(2)、さらに北西方向に位置する尾高高原の山麓部にある夏至花遺跡^③(3)・出合遺跡^④(4)・黒石原遺跡^⑤(5) の各遺跡からは石匙・石鏃などが採集されている。特に石鏃は、出合、不二沢、溜カ谷、八坂、高塚など、尾高高原の畑で 24 個発見されている。また、昭和 10 年ごろから 29 年にかけて、東に位置する千種地区内で遺物の調査、研究のための採集を行っ

たところ石器 200 点余りを得たとあり、これらの遺物は表土層（地表 30～50cm）の上部から出土したという。大久保遺跡周辺の縄文遺跡では、近隣の鈴山遺跡^⑥(6) で石鏃・剥片が濃密に散布しており、範囲確認調査の結果、縄文時代後期～晩期頃の集落と推測されている。また、東北東に所在する高原遺跡^⑦(7) では石鏃・石斧などが見つかっている。

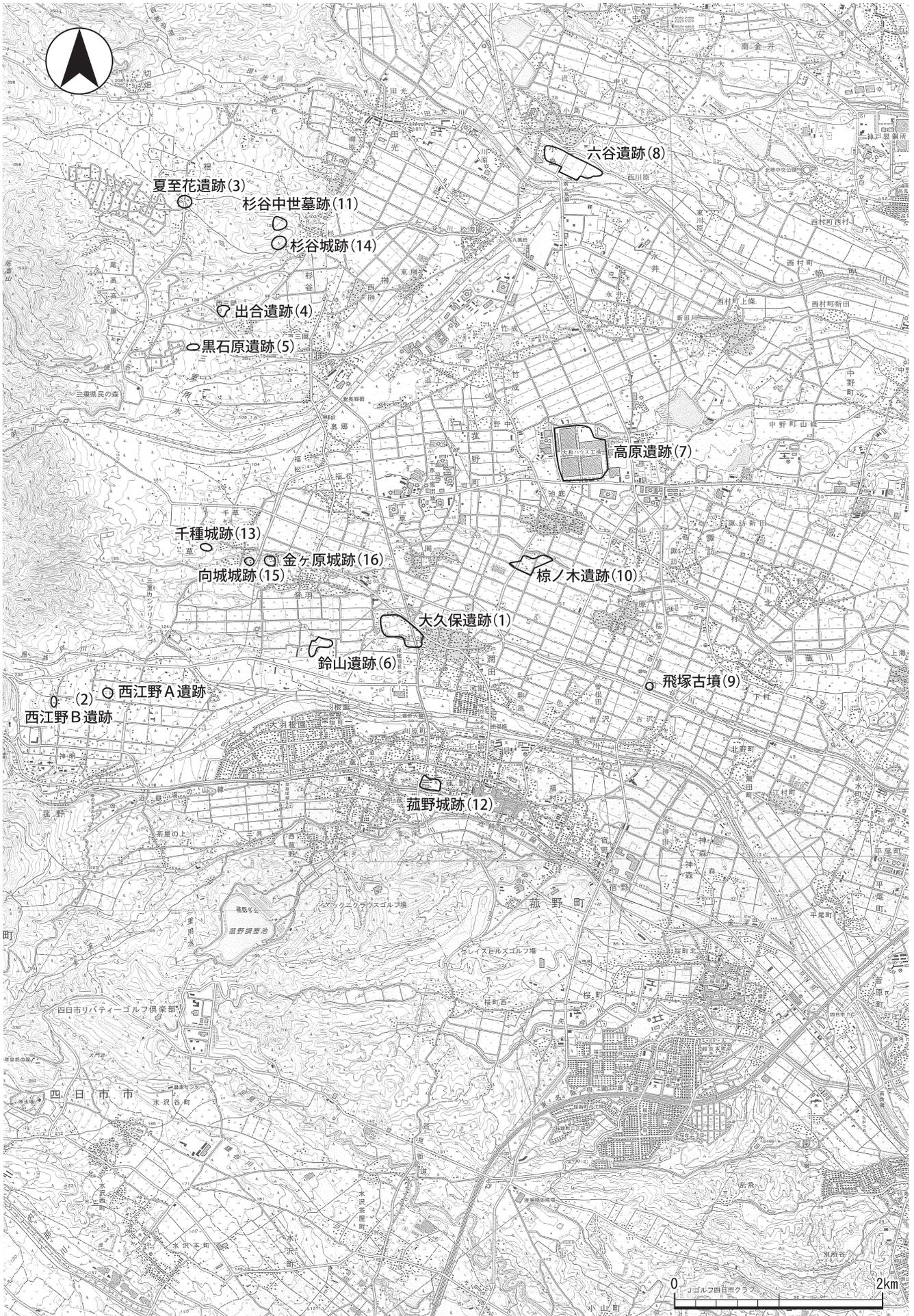
菰野町の弥生時代の遺跡については、これまで本格的な遺跡の発見には至っていないが、尾高高原の夏至花遺跡や北方向に位置する田光川左岸の六谷遺跡^⑧(8) で少量ながら弥生土器片や石器などが出土している。また、東方向に位置する飛塚古墳^⑨(9) の下層に後期の竪穴住居が 1 棟確認されている。今後、発掘調査によって、この地域に弥生時代の集落が存在していたことが判明すると考えられる。

古墳時代については、「菰野町史」によると、菰野町の古墳は、後期の 6 世紀末から 7 世紀前半の円墳が多く、朝明川の上流部に沿うように集中して造られた群集墳である。しかし、大字大強原おおごはらに所在する飛塚古墳については、明治末ごろに銅鏡・勾玉・管玉・鉄刀が出たという伝承と平成 24 年度の調査により出土した家形埴輪や円筒埴輪の形や組み合わせから菰野町内の古墳の中で最も古い古墳時代前期末～中期初頭（約 1650～1500 年前）であることが判明している。

飛鳥時代以降については、平成 26 年度の発掘調査で椋ノ木遺跡^⑩(10) で、飛鳥時代の竪穴住居 5 棟（うち 4 棟で煙道付きカマド跡を検出）・土坑 1 基が見つかった。また、六谷遺跡で奈良時代前半の集落跡とみられる竪穴住居と掘立柱建物群が見つかった。

三重・朝明両郡の地域は、平安後期ごろから伊勢神宮の神領地として寄進されてきた。この神領には御厨、御園と呼ばれる荘園が存在したとあるが、「神鳳鈔」^⑪では、本遺跡の所在地周辺には潤田御厨があったという記録がある。

そして、中世の遺跡としては北方向に位置する杉谷中世墓跡^⑫(11) で、鎌倉・室町時代の宝篋印塔や



第1図 遺跡位置図 (1/50,000) 『国土地理院発行「伊船」「四日市西部」「四日市東部」「菰野」(1/25,000)より』

五輪塔が 200 基近く残され、10 基近い火葬穴が検出された。さらに、古瀬戸の四耳壺や常滑の二筋壺といった骨壺が数多く出土するなどの貴重な発見があり中世墳墓として県指定史跡となっている。

また、この地域内には数多くの城砦が分布している。本遺跡の周辺部には、菰野城跡^⑫、千種城跡^⑬、杉谷城跡^⑭、向城城跡^⑮、金ヶ原城跡^⑯が近い位置に点在する。戦国時代、この地は伊勢国の四つの勢力の一つであった「北勢四十八家」といわれる諸侍がいたが、この四十八家の中の棟梁的役割を果たしていたのが千種氏であったといわれている。初代千種忠顕は、村上源氏久我家の流れをくむ中流貴族六条家の出身である。後醍醐天皇方に仕え鎌倉幕府滅亡の際には京都六波羅攻めに参戦し勝利した。その後、忠顕は建武新政権の下で参議や国司の地位と、数多くの没収地を与えられるなどの恩賞を得た。現菰野町の千草の地はこの恩賞として得た地であると推察されている。千種城の城主は、千種忠顕の子孫である千種氏代々の居城であると推定されている^⑰。

その後、江戸時代においては、この地域は土方氏が領有し、廃藩置県に至るまで菰野藩領であった。潤田の地域人口は、嘉永元年（1848）において男 326 人、女 319 人の併せて 645 人となっており、慶応二年（1866）の年貢の石高は、536.657 石となっている。南方向に位置する旧潤田神社は、明治年間に合祀されたものであるが、大正年間にさらに千種神社に合祀され、跡地が残ったままになっている。

（伊藤亘）

【註】

- ①菰野町教育委員会『菰野町史 上巻』（1987 年）
- ②註①に同じ
- ③三重県埋蔵文化財センター『近畿自動車道名古屋神戸線（四日市 JCT～亀山西 JCT）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』「鈴山遺跡（一次）」（2014 年）
- ④註①に同じ
- ⑤三重県教育委員会『昭和 58 年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』「六谷遺跡」（1984 年）
- ⑥三重県埋蔵文化財センター『飛塚古墳発掘調査報告』（2015 年）
- ⑦三重県埋蔵文化財センター『菰野のあけぼの 第 1 号』「棕ノ木遺跡（第 2 次）現地説明会資料」（2014 年）
- ⑧『群書類従』第 1 巻所収
- ⑨註①に同じ

⑩三重県教育委員会『三重の中世城館』（1976 年）

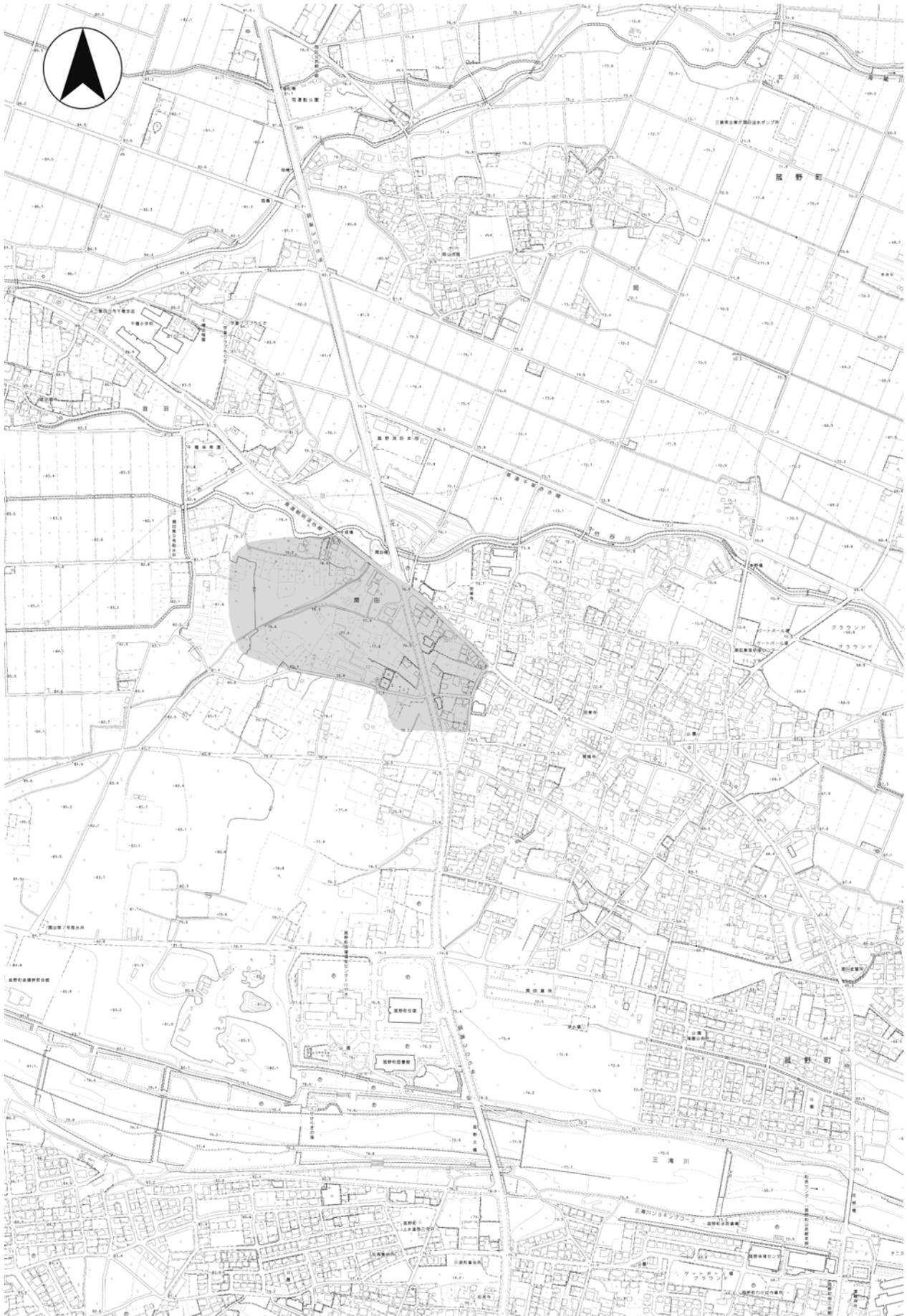
⑪註①に同じ

【参考文献】

菰野町教育委員会『下江平遺跡発掘調査報告Ⅰ』（1987 年）

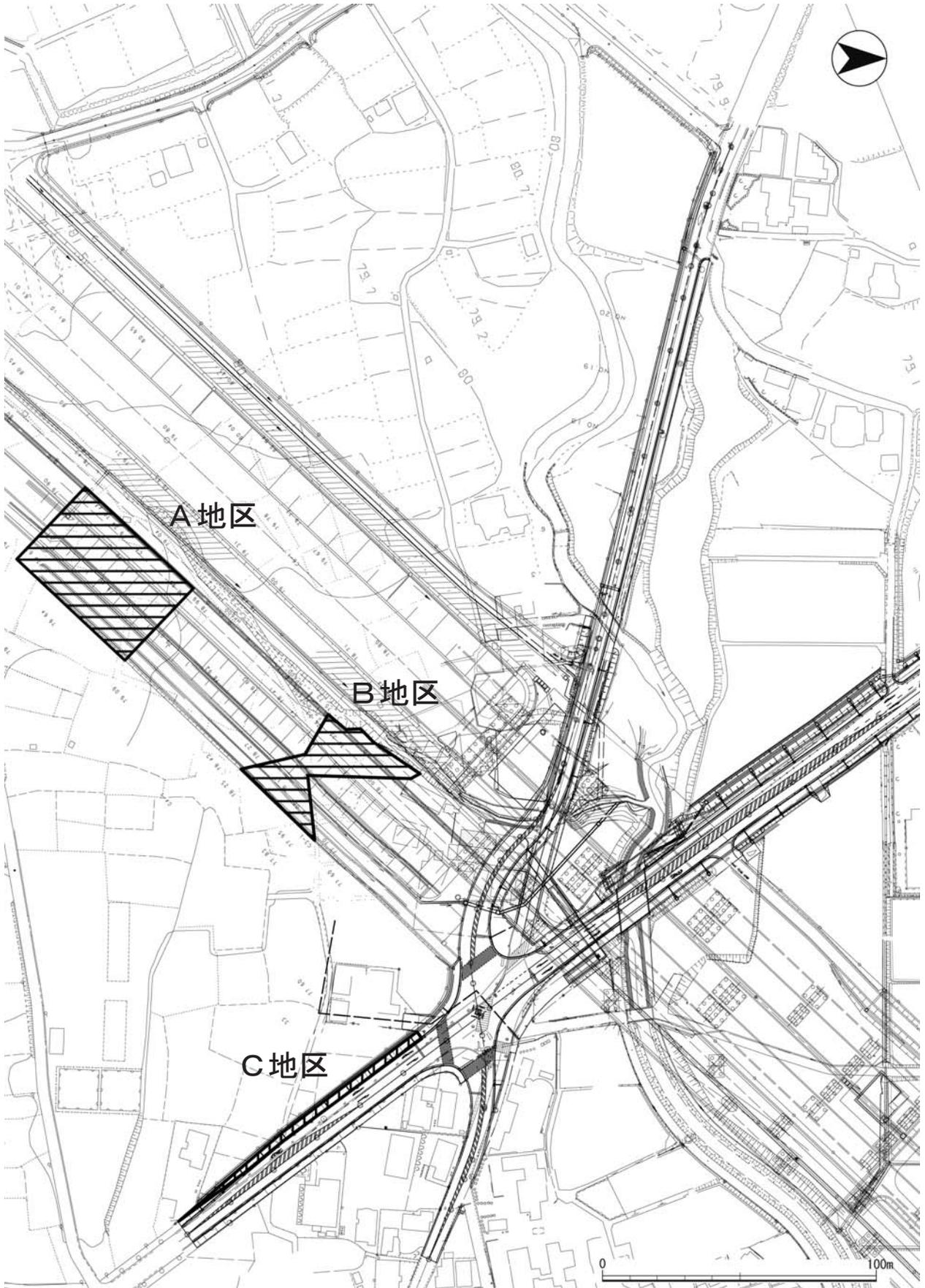
菰野町教育委員会『下江平遺跡発掘調査報告Ⅱ』（1988 年）

平凡社「三重県の地名」（1983 年）



第2図 遺跡地形図 (1/5,000)

0 400m



第3图 調査区位置図 (1/2,000)

Ⅲ 調査成果（遺構）

1 基本層序

調査区は三滝川の扇状地に位置する。標高は、約78～79mである。各地区の土層の堆積状況は、A地区では第1層が黒褐色砂質土層、第2層が黒色砂質土層、第3層が暗オリーブ褐色砂質土層である。B地区では第1層が黒褐色砂質土層、第2層が暗オリーブ褐色砂質土層、第3層が黒褐色砂質土層、第4層が明黄褐色砂質土層ないし明黄褐色土層である。C地区では第1層が黒褐色土層、第2層が黒褐色砂質土層、第3層が黄褐色砂質土層ないし黄褐色砂礫土層である。遺構の検出は、A地区が第3層上面、B地区が第4層上面、C地区が第3層上面で行った。

2 検出遺構

遺構は、各地区について時代順に記述する。遺構の個別の詳細について遺構一覧表（第1表）を参照されたい。

A地区・縄文時代

土坑SK26（第12図） 調査区の北東部のT10区において検出した土坑である。平面形は、長楕円形である。規模は、長軸1.7m、短軸0.95m、深さ0.21mである。全体的にみて深さは、やや浅めである。出土遺物には、図化できなかったものもあるが縄文土器深鉢の口縁部・底部（10・11）がある。

土坑SK27 調査区の北東部のS11区を中心に検出した土坑である。平面形は、やや不定形の楕円形である。規模は、長軸2.6m、短軸1.9m、深さ0.06mである。全体的に遺構は、浅い。出土遺物には、図化できなかったものもあるが縄文土器深鉢の底部（12）がある。

土坑SK28 調査区の北東部のS12区を中心に検出した土坑である。平面形は、SK27と同様に不定形の楕円形である。規模は、長軸3.8m、短軸1.8m、深さ0.04～0.07mである。全体的に遺構は、浅い。遺構検出時に縄文土器の細片が出土しており、竪穴住居の断片的な残りである可能性もある。

鎌倉時代・掘立柱建物SB59（第14図） 調査区

中央からやや東寄りのU10区からV12区に位置する掘立柱建物である。規模は、2間×2間で北西側に1間分の庇をもつ側柱建物である。棟方向は、北で西に71°振れる。建物規模は、桁行4.3m 梁行4.5mを測る。柱間寸法は、桁行が南東から2.1m（7尺）、2.2m（7尺）、梁行が南東から2.2m（7尺）、2.3m（7尺5寸）で庇が2.2m（7尺）である。従って、建物全体の推定規模は桁行6.4m（21尺）、梁行4.4m（14尺5寸）となる。建物の面積は、底部分を含めて28.16㎡である。柱穴からの出土遺物は皆無なため、埋土から中世と判断した。

江戸時代・溝SD群 調査区北東部において北西から南東方向に掘削されている溝（SD14～16・18～21）である。掘削幅は0.2～0.4m前後で、延長がほぼ揃っている。深さは0.1～0.5mであるが所々アップダウンしている。出土遺物に近世の磁器の細片が出土していることから江戸時代の畑地の耕作溝と考えられる。

B地区・鎌倉時代

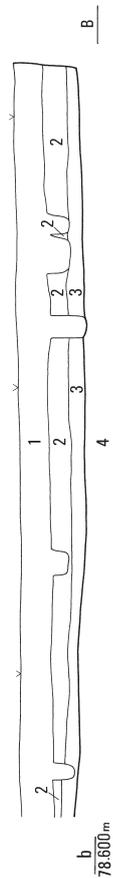
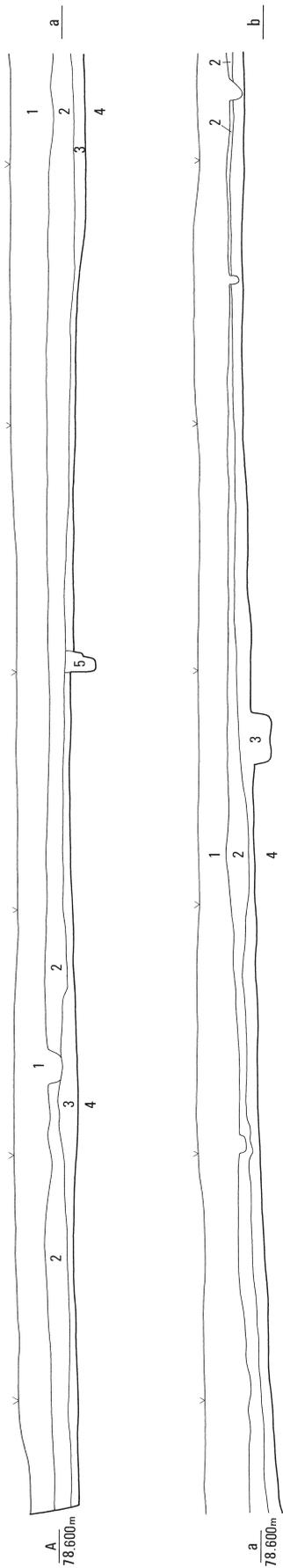
土坑SK57（第13図） 調査区南側の中央部付近のM32区を中心に検出した土坑である。平面形は、円形である。土坑の規模は、長軸2.64m、短軸2.31m、深さ0.58mを測る。遺構は、やや深い挿鉢状である。遺構の埋土は、鎌倉時代の遺構と同様であるため、この時期であると判断した。出土遺物は、皆無である。

河道SR45 調査区北部において検出した河道の右岸である。現在の竹谷川沿いに確認ができ、川岸であったと判断できる。出土遺物には、陶器椀（山茶椀）（17・18）が出土しており、鎌倉時代から竹谷川が上流から流されてくる土砂によって徐々に埋没し、川幅が狭まってきていることが判明した。

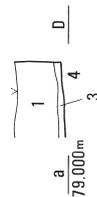
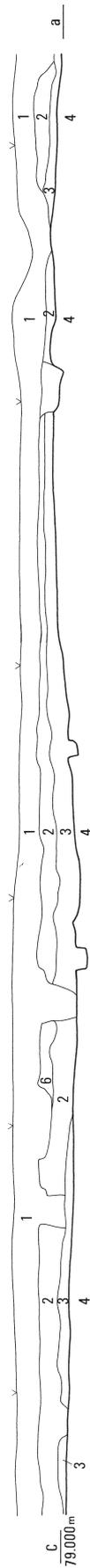
C地区・縄文時代

土坑SK33 調査区北部のK58区において検出した土坑である。平面形は、アメーバ状に広がる不整形なものである。局所的に極端に深くなる部分があり、風倒木の痕跡である可能性もある。出土遺物には、縄文土器深鉢（31）の口縁部がある。（萩原義彦）

A地区 南壁



A地区 北西壁



- 1 黒褐色砂質土 2. 5Y3/2
- 2 黒色砂質土 2. 5Y2/1
- 3 暗オリーブ褐色砂質土 2. 5Y3/3
- 4 黄色土 2. 5Y7/8
- 5 黒褐色砂質土 2. 5Y3/2



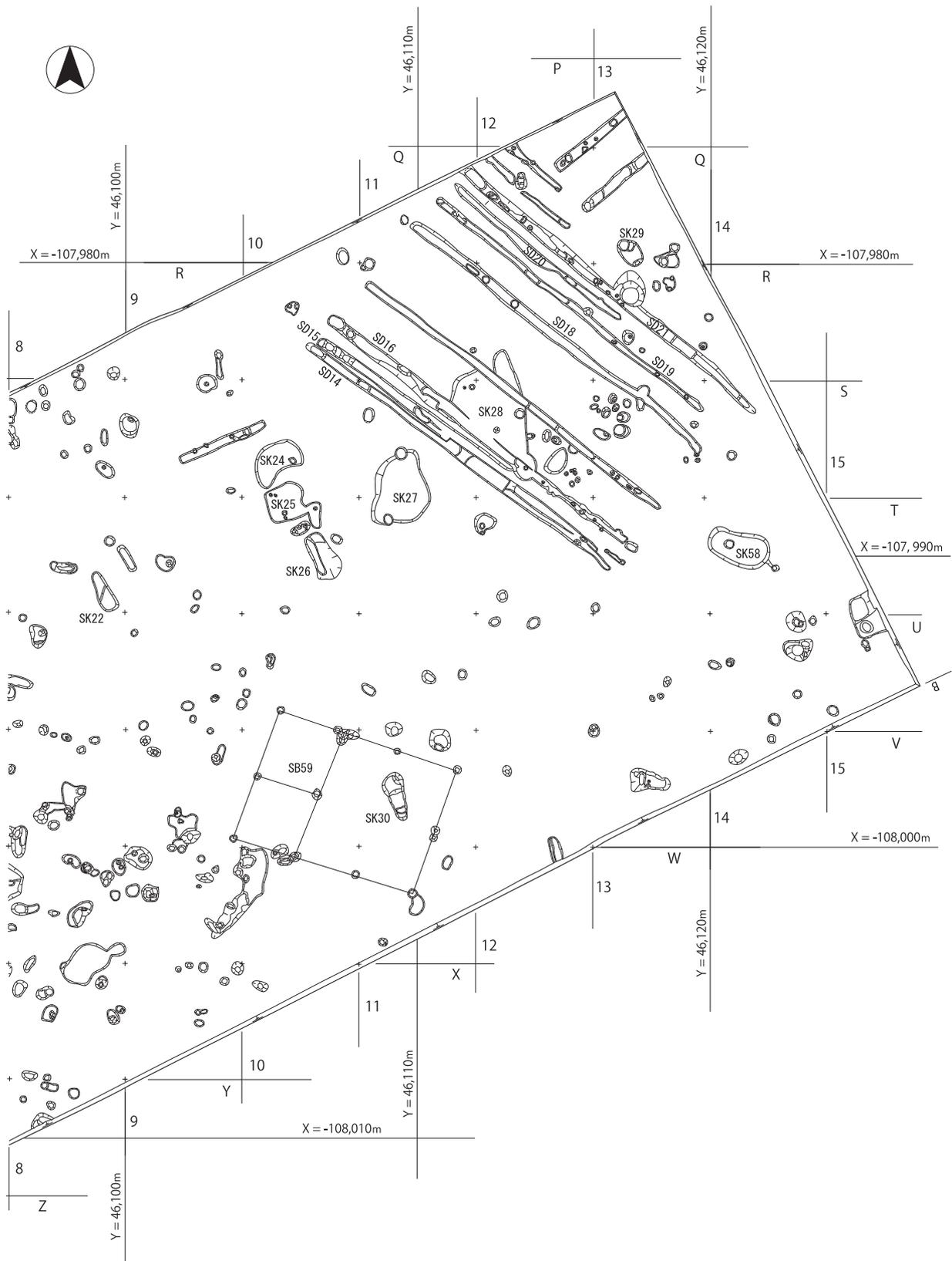
第4図 A地区土層断面図 (1/100)



A 地区



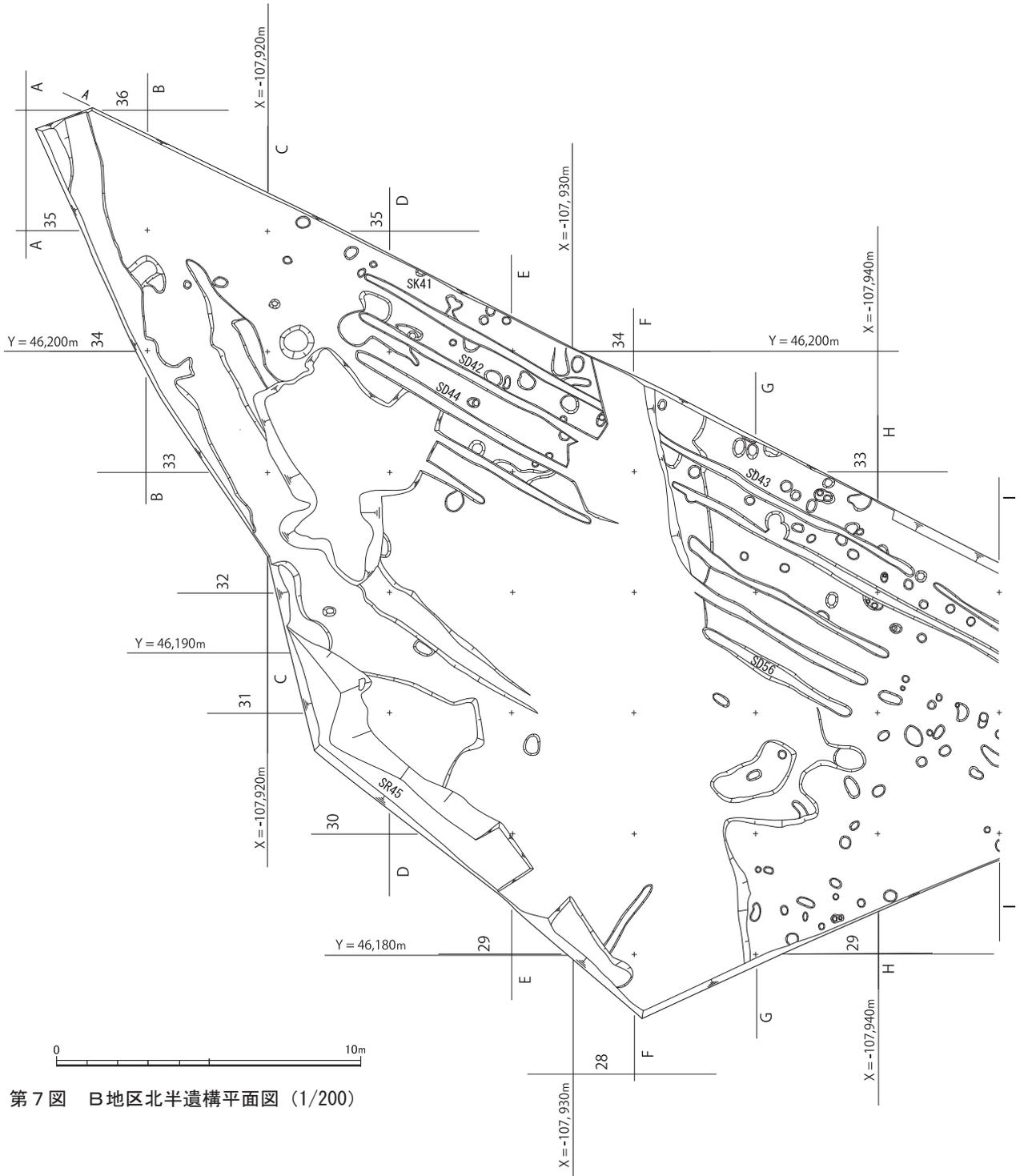
第5图 A地区西半遺構平面图 (1/200)



第6図 A地区東半遺構平面図 (1/200)



B地区



第7图 B地区北半遺構平面図 (1/200)

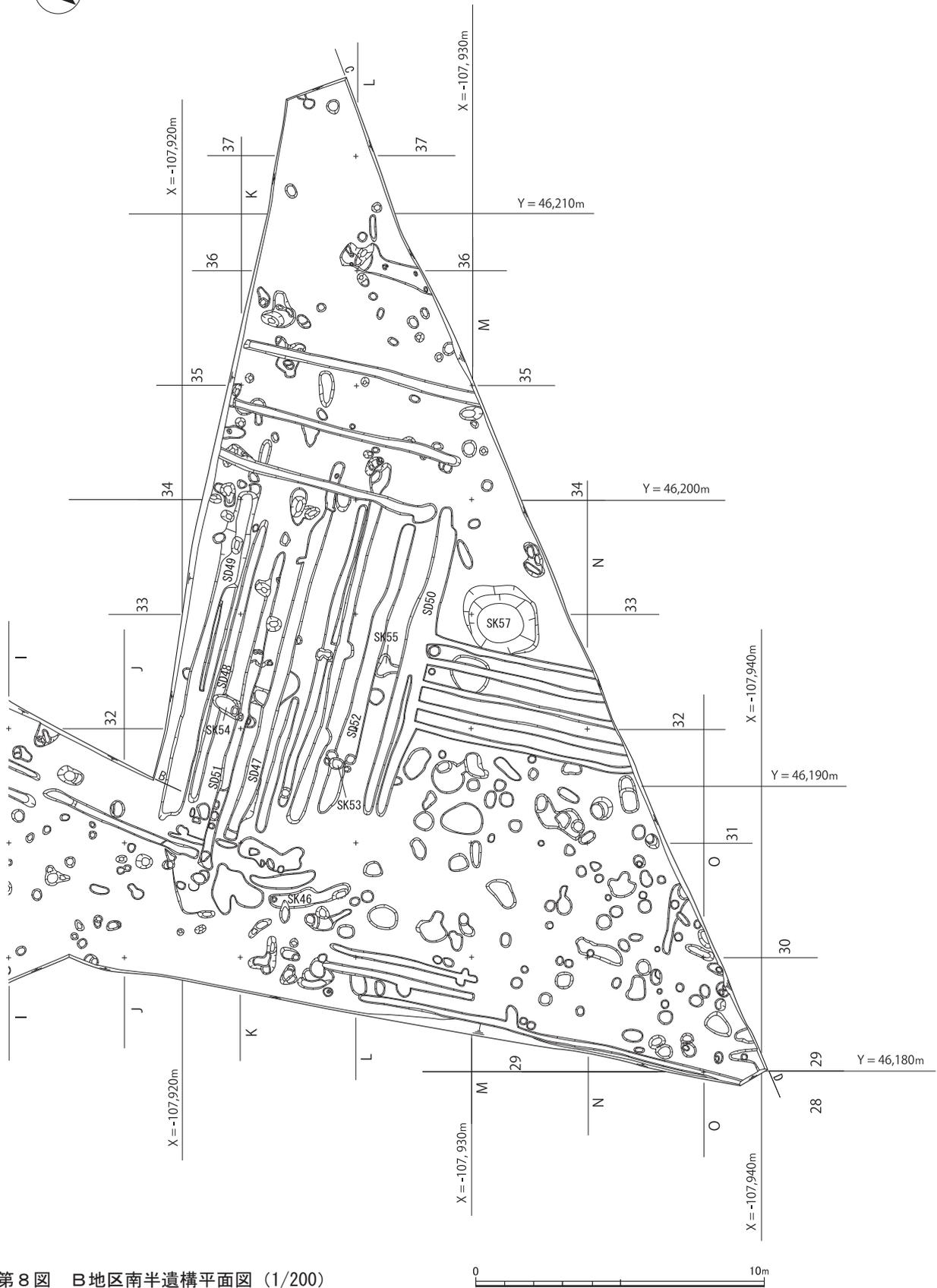
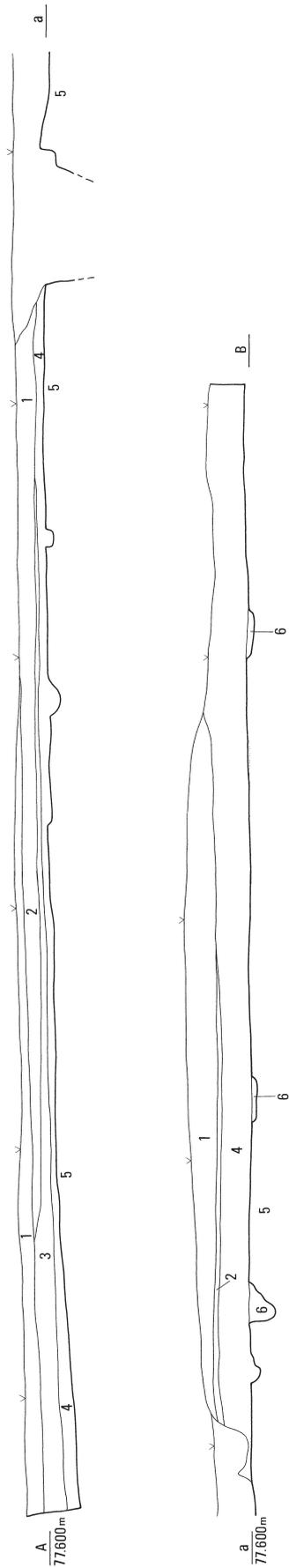
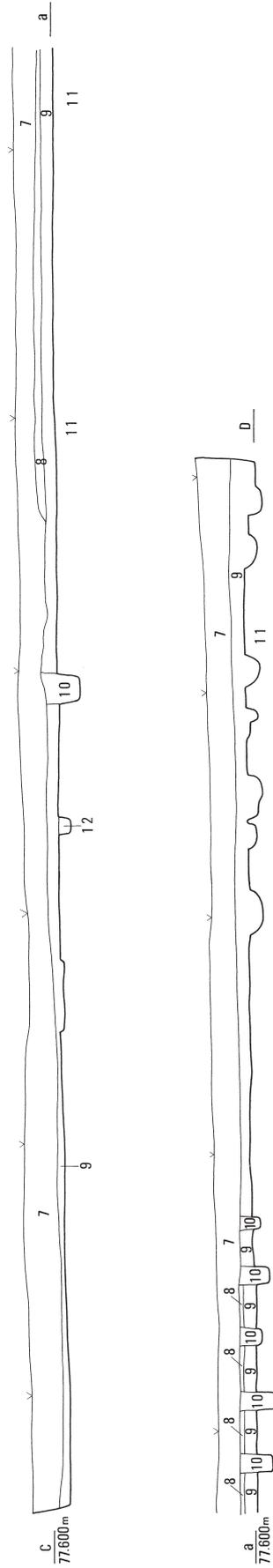


图9 图 B地区土層断面图 (1/100)

B地区 北東壁

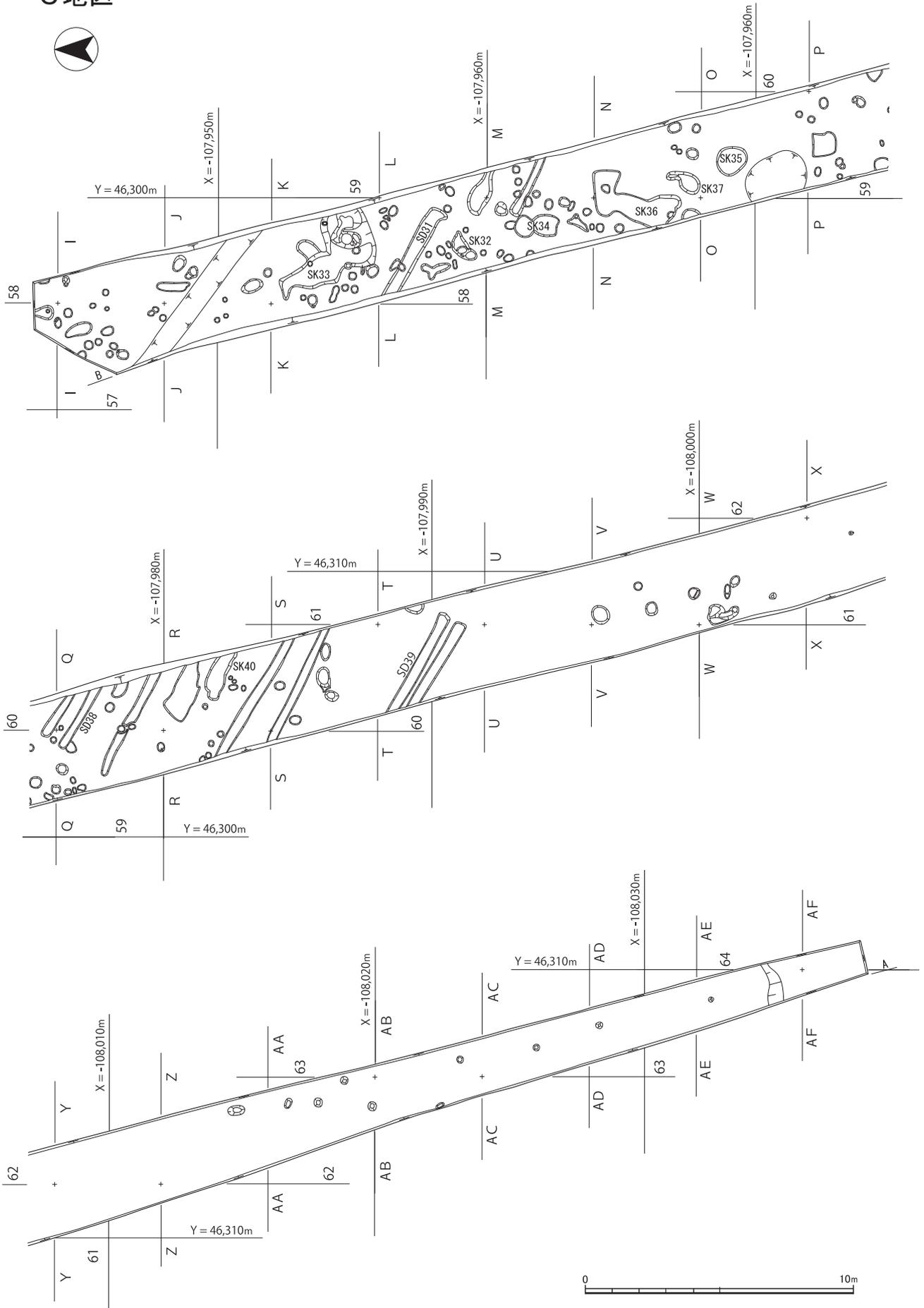


B地区 南壁



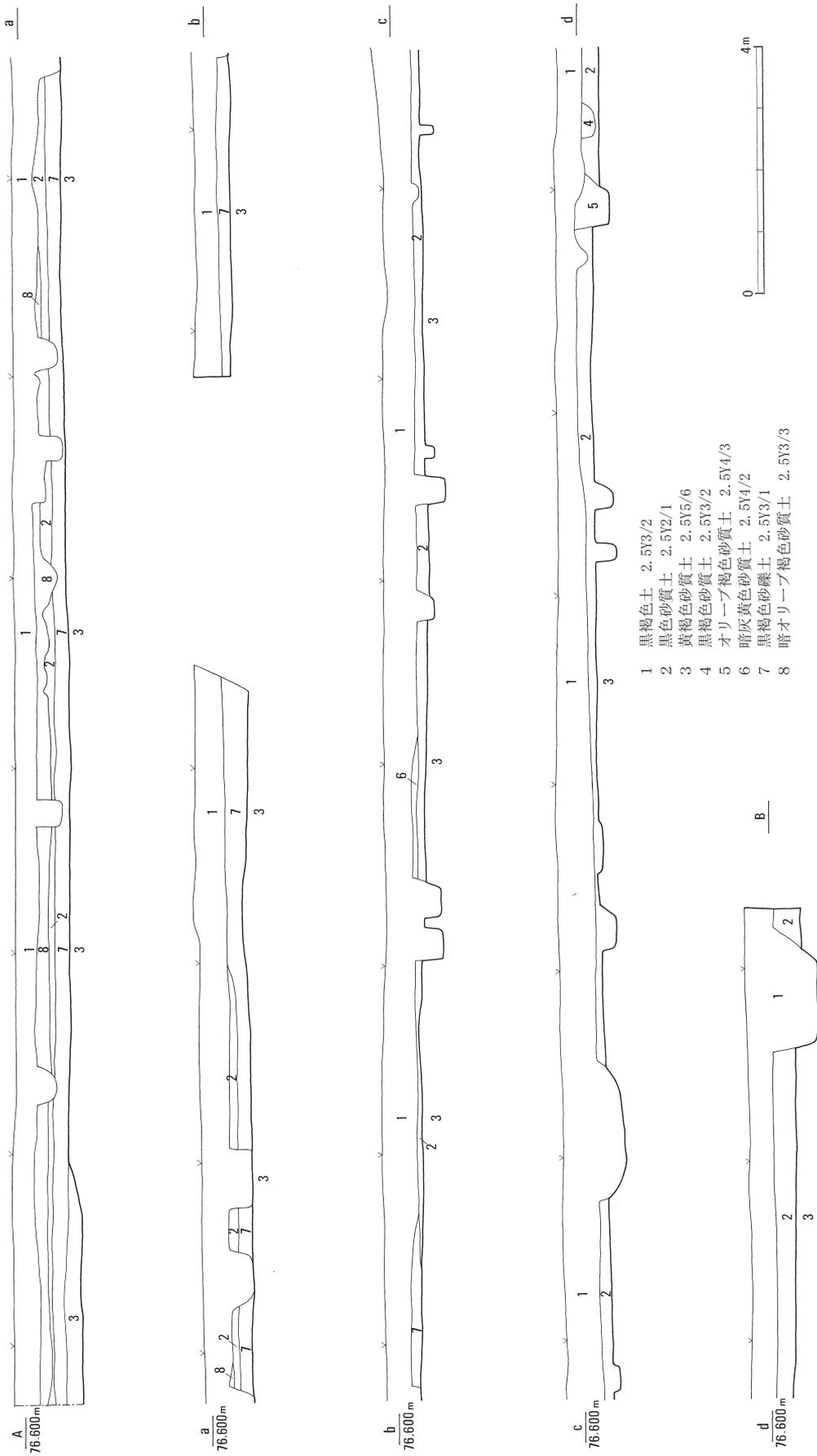
- | | | | |
|--------------|----------|------------|----------|
| 1 盛土 | 2. 5Y3/2 | 7 暗灰黄色土 | 2. 5Y4/2 |
| 2 黑褐色砂質土 | 2. 5Y3/3 | 8 黑褐色土 | 5YR2/2 |
| 3 暗オリーブ褐色砂質土 | 2. 5Y3/1 | 9 黒色砂質土 | 2. 5Y2/1 |
| 4 黑褐色砂質土 | 2. 5Y3/1 | 10 オリーブ褐色土 | 2. 5Y4/3 |
| 5 明黄褐色砂質土 | 2. 5Y6/8 | 11 明黄褐色土 | 2. 5Y6/8 |
| 6 黒色砂質土 | 2. 5Y2/1 | 12 黒色土 | 2. 5Y2/1 |

C地区

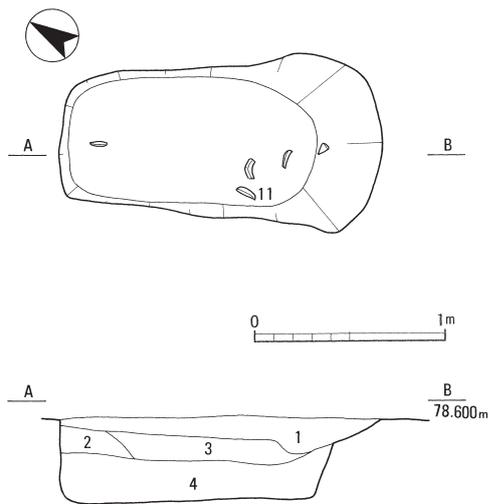


第10图 C地区遺構平面図 (1/200)

C地区 南西壁

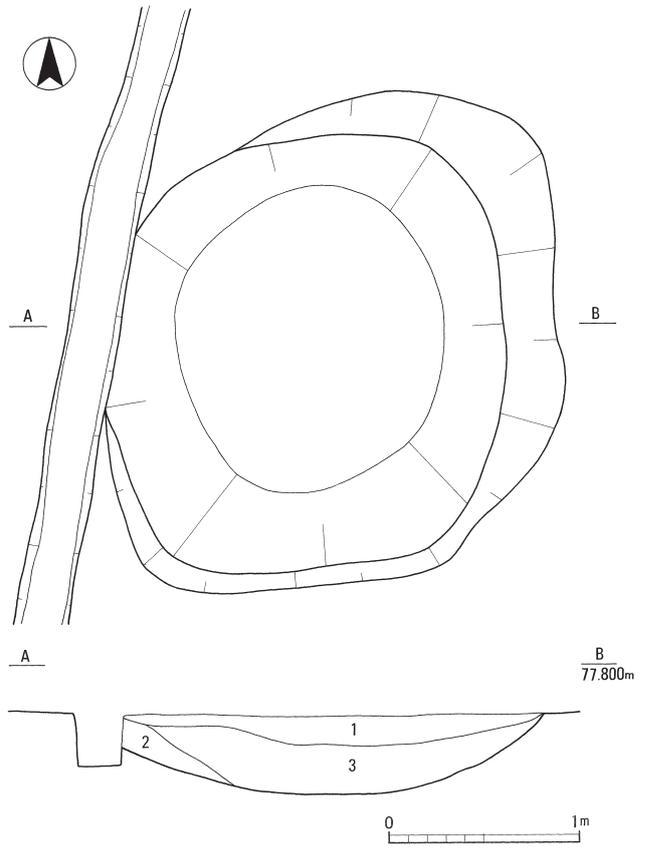


継11図 C地区土層断面図 (1/100)



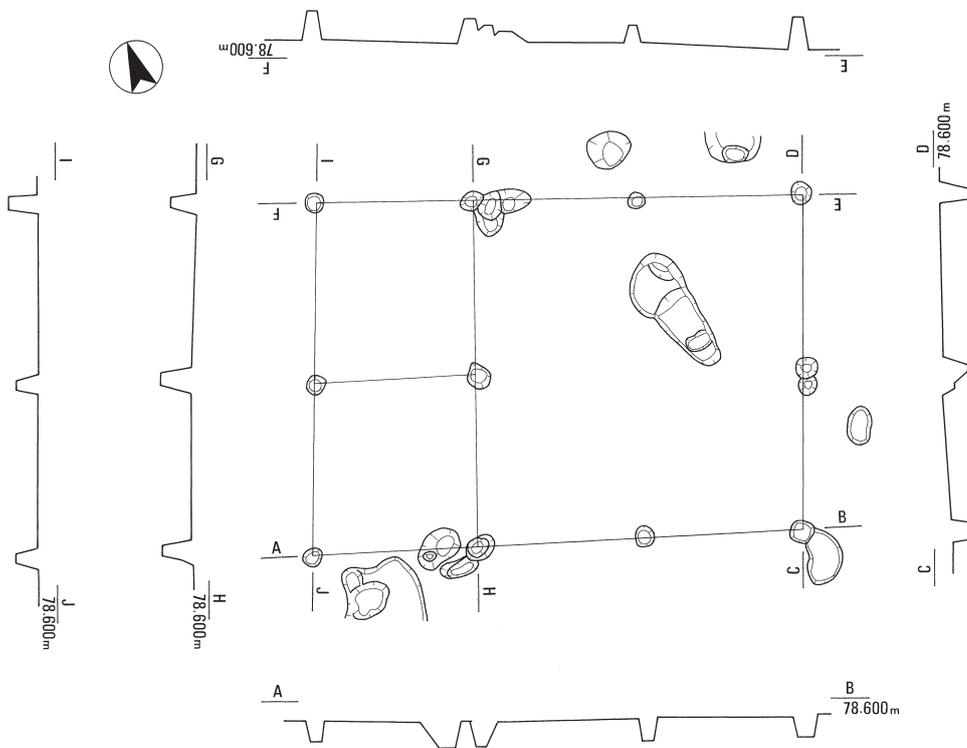
- 1 暗褐色土 10YR3/4
- 2 明黄褐色土 10YR6/6
- 3 にぶい黄褐色土 10YR5/4
- 4 黒褐色土 10YR3/2

第12図 土坑S K26 実測図 (1/40)



- 1 黒褐色砂質土 2.5Y3/1
- 2 黒褐色土 2.5Y3/2
- 3 黒色砂質土 2.5Y2/1

第13図 土坑S K57 実測図 (1/40)



第14図 掘立柱建物S B59 実測図 (1/100)

遺構番号	大地区名	小地区名	性格	時期	規模	備考
S K 1	A地区	Z 3	土坑	中世	長軸2.7m、短軸2.35m、深さ0.04~0.12m	
S K 2	A地区	Z 3	土坑	中世	長軸2.24m、短軸1.62m、深さ0.16m	
S K 3	A地区	X 3	土坑	中世	長軸1.58m、短軸1.4m、深さ0.09m	
S K 4	A地区	Y 6	土坑	中世	長軸1.38m、短軸0.84m、深さ0.26m	
S K 5	A地区	Y 6	土坑	中世	長軸1.66m、短軸0.69m、深さ0.57m	ピット重複
S K 6	A地区	X 6	土坑	中世	長軸1.98m、短軸0.59m、深さ0.1m	
S K 7	A地区	X 4	土坑	中世	長軸1.1m、短軸0.72m、深さ0.15m	
S K 8	A地区	X 5	土坑	中世	長軸0.74m、短軸0.69m、深さ0.05m	
S K 9	A地区	W 5 他	土坑	中世	長軸2.12m、短軸1.1m、深さ0.38m	
S K 10	A地区	X 5 他	土坑	中世	長軸1.76m、短軸0.94m、深さ0.31m	
S K 11	A地区	X 5	土坑	中世	長軸1.58m、短軸0.8m、深さ0.29m	
S K 12	A地区	Y 7	土坑	中世	長軸0.84m、短軸0.69m、深さ0.33m	ピット重複
S K 13	A地区	W 4・5	土坑	中世	長軸2.28m、短軸1.5m、深さ0.11m	
S D 14	A地区	R10他	溝	近世	幅0.25~0.53m、深さ0.11~0.31m	耕作溝
S D 15	A地区	R10他	溝	近世	幅0.3~0.39m、深さ0.07~0.17m	耕作溝
S D 16	A地区	R10他	溝	近世	幅0.28~0.54m、深さ0.08~0.11m	耕作溝
S K 17	A地区	U 7 他	土坑	中世	長軸0.76m、短軸0.6m、深さ0.27m	
S D 18	A地区	Q11他	溝	近世	幅0.3~0.42m、深さ0.1~0.14m	耕作溝
S D 19	A地区	Q11他	溝	近世	幅0.2~0.26m、深さ0.1~0.13m	耕作溝
S D 20	A地区	Q11他	溝	近世	幅0.15~0.39m、深さ0.04~0.08m	耕作溝
S D 21	A地区	Q11他	溝	近世	幅0.4~0.48m、深さ0.19~0.46m	耕作溝
S K 22	A地区	T 8	土坑	中世	長軸1.46m、短軸0.56m、深さ0.21m	
S K 23	A地区	U 7	土坑	中世	長軸1.04m、短軸0.76m、深さ0.18m	
S K 24	A地区	S10	土坑	中世	長軸1.8m、短軸1m、深さ0.41m	
S K 25	A地区	S10他	土坑	中世	長軸1.3m、短軸1.3m、深さ0.18m	
S K 26	A地区	T10	土坑	中世	長軸1.7m、短軸0.95m、深さ0.21m	
S K 27	A地区	S11他	土坑	縄文	長軸2.6m、短軸1.9m、深さ0.06m	堅穴住居?
S K 28	A地区	S12他	土坑	縄文	長軸3.8m、短軸1.8m、深さ0.04~0.07m	堅穴住居?
S K 29	A地区	R 13	土坑	中世	長軸1.16m、短軸1m、深さ0.75m	
S K 30	A地区	V11	土坑	中世	長軸1.68m、短軸0.74m、深さ0.08~0.3m	
S D 31	C地区	L58	溝	近世	幅0.53~0.58m、深さ0.2m	耕作溝
S K 32	C地区	L58	土坑	中世	長軸1.12m、短軸0.59m、深さ0.14~0.34m	
S K 33	C地区	K58	土坑	中世	長軸3.75m、短軸2.1m、深さ0.14~0.94m	風倒木痕跡?
S K 34	C地区	M58	土坑	中世	長軸0.94m、短軸0.81m、深さ0.32m	
S K 35	C地区	059	土坑	中世	長軸1.18m、短軸1.07m、深さ0.21m	
S K 36	C地区	N58	土坑	中世	長軸3.19m、短軸1.14m、深さ0.1m	
S K 37	C地区	N59	土坑	中世	長軸0.76m、短軸0.71m、深さ0.22m	ピット重複
S D 38	C地区	Q60	溝	近世	幅0.31~0.34m、深さ0.23~0.28m	耕作溝
S D 39	C地区	T60	溝	近世	幅0.38~0.42m、深さ0.12~0.19m	耕作溝
S K 40	C地区	R60	土坑	中世	長軸2.04m、短軸0.97m、深さ0.07m	
S K 41	B地区	C24他	土坑	中世	径0.36m、深さ0.09m	ピット
S D 42	B地区	D23他	溝	近世	幅0.34~0.37m、深さ0.46m	耕作溝
S D 43	B地区	F23他	溝	近世	幅0.29~0.37m、深さ0.43~0.46m	耕作溝
S D 44	B地区	D23他	溝	近世	幅0.45m、深さ0.37m	耕作溝
S R 45	B地区	C31他	旧河川岸	中世以降	—	旧竹谷川右岸
S K 46	B地区	K30他	土坑	中世	長軸5.7m、短軸1.2m、深さ0.1~0.12m	耕作溝の残部?
S D 47	B地区	K31他	溝	近世	幅0.3~0.54m、深さ0.17~0.2m	耕作溝
S D 48	B地区	J31他	溝	近世	幅0.34~0.4m、深さ0.09~0.14m	耕作溝
S D 49	B地区	J31他	溝	近世	幅0.68~0.78m、深さ0.09~0.22m	耕作溝
S D 50	B地区	L31他	溝	近世	幅0.36~0.72m、深さ0.12~0.15m	耕作溝・2条重なる
S D 51	B地区	J31他	溝	近世	幅0.33~0.49m、深さ0.04~0.06m	耕作溝
S D 52	B地区	K31他	溝	近世	幅0.48~0.58m、深さ0.09~0.11m	耕作溝
S K 53	B地区	K31	土坑	中世	長軸0.51m、短軸0.39m、深さ0.18m	ピット
S K 54	B地区	K32	土坑	中世	長軸1m、短軸0.62m、深さ0.27m	
S K 55	B地区	L32	土坑	中世	長軸0.86m、短軸0.73m、深さ0.37m	
S D 56	B地区	F31他	溝	近世	幅0.36~0.58m、深さ0.27~0.31m	耕作溝
S K 57	B地区	L32他	土坑	中世	長軸2.64m、短軸2.31m、深さ0.58m	
S K 58	A地区	T14	土坑	縄文?	長軸2.14m、短軸1.24m、深さ0.17m	
S B 59	A地区	V10他	掘立柱建物	中世	2間(4.5m)×2間(4.7m)	庇1間(2.2m)

第1表 遺構一覧表

IV 調査成果（遺物）

1 出土遺物概要

今回の発掘調査によって出土した遺物は、コンテナバットに整理して14箱で、重量にして9.25kgである。遺物の時期は、縄文時代後期・晩期のものと平安時代末期から鎌倉時代にかけてのものと限られている。遺物に関する記述は、各地区で包含層から各遺構出土の土器について説明する。遺物は土器がすべてで、遺物個々の詳細なデータについては、遺物観察表（第2表）を参照されたい。

A地区

包含層出土遺物（1～7・13） 1～4は、縄文土器の口縁部である。1は、深鉢で後期前葉の縁帯文土器である。2～4の時期は、後期中葉の北白川上層3式のものである。2は浅鉢で、波状口縁の口縁部である。3・4は、深鉢の口縁部である。5・6は、縄文土器深鉢の底部である。7は、縄文土器注口土器の口の部分である。口の破片は、小さい。5～7は、縄文時代後期中葉のものである。13は、弥生土器の甕の底部片とみられる。

土坑SK3出土遺物（8） 8は、縄文時代晩期後葉の突帯文土器の体部片である。

R13Pit出土遺物（9） 9は、縄文土器深鉢の底部である。

土坑SK26出土遺物（10・11） 10は縄文土器深鉢の口縁部、11は底部である。共に、後期中葉のものである。10は、東日本の関東地方の堀之内2式のもので東海地域において在地化したものである。

土坑SK27出土遺物（12） 12は縄文土器深鉢の底部で、外面に網代痕跡を留める。

B地区

包含層出土遺物（14・15） 14はロクロ土師器皿の底部である。12世紀末から13世紀前半のものである。15は陶器椀（以下、山茶椀）の底部である。時期は尾張型第5型式で、12世紀末～13世紀初頭のものである。

溝SD43出土遺物（16） 16は山茶椀の底部である。時期は尾張型第6型式で、13世紀前半のものである。

河道SR45出土遺物（17・18） 17・18は山茶椀の底部である。時期は、共に尾張型第5～6型式で12世紀末～13世紀前半のものである。

溝SD51出土遺物（19） 19は山茶椀の底部である。時期は、尾張型第5型式で、12世紀末～13世紀初頭のものである。

C地区

包含層出土遺物（20～29） 20は灰釉陶器皿である。21～29は山茶椀である。20は、東山72号窯式で10世紀後半のものである。21～29の時期は、尾張型第5～6型式で12世紀末～13世紀前半のものである。
土坑SK33出土遺物（30・31） 30・31は縄文時代後期中葉の深鉢である。共に北白川上層3式の口縁部から体部にかけてのものである。

L58Pit2出土遺物（32） 32は縄文時代晩期後葉の突帯文土器の口縁部である。

土坑SK35出土遺物（33） 33は山茶椀である。時期は、尾張型第5型式で、12世紀末～13世紀初頭のものである。底部外面に墨書がなされている。「×」もしくは「十」であろうか。

溝SD38出土遺物（34） 34は陶器皿（以下、山皿）である。尾張型第4型式で12世紀後半のものである。

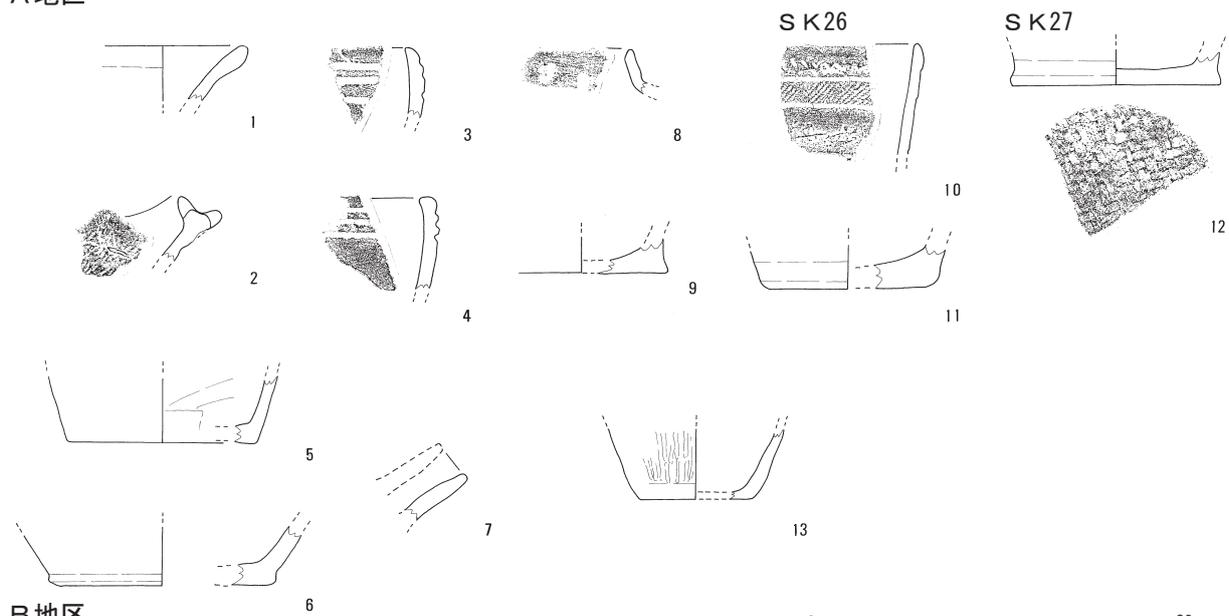
N58Pit1出土遺物（35） 35は山皿である。高台部は、消失している。時期は、尾張型第5型式で、12世紀末～13世紀初頭のものである。

V61Pit1出土遺物（36） 36は山茶椀である。時期は、尾張型第5型式で、12世紀末～13世紀初頭のものである。底部外面に墨書がなされている。「上」と判断したが別の字である可能性もある。（萩原義彦）

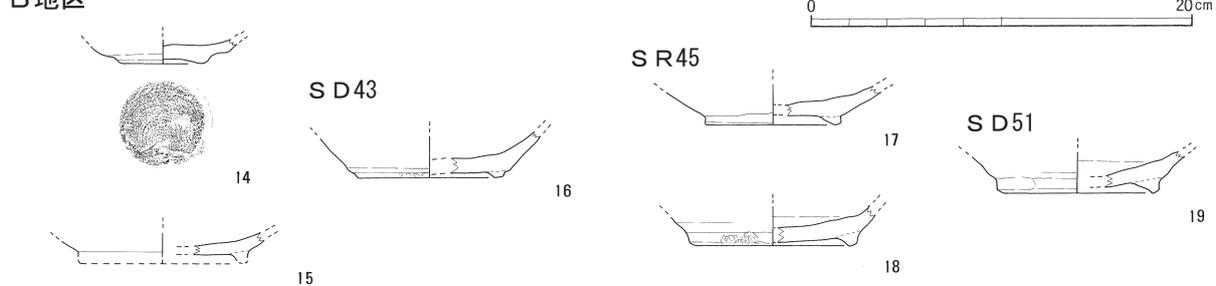
【参考文献】

三重県埋蔵文化財センター「研究紀要 第3号」(1994年)

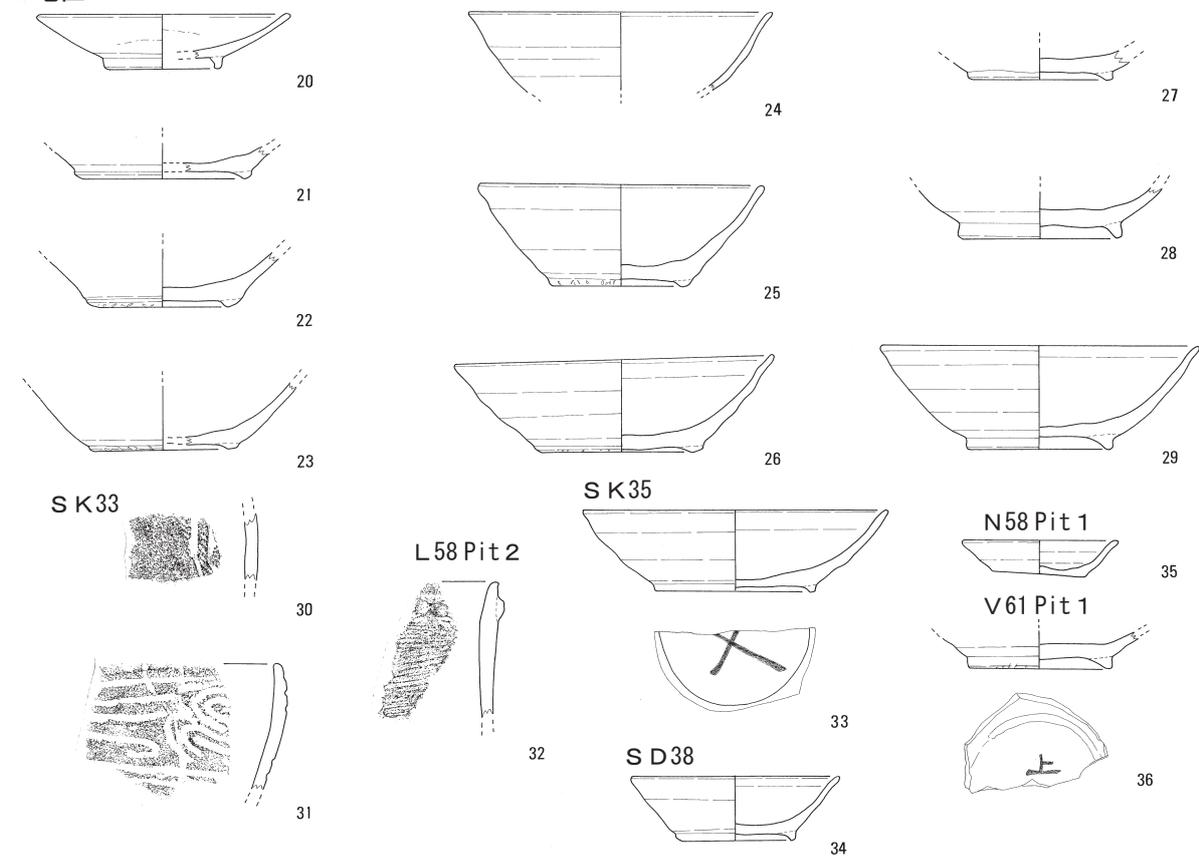
A 地区



B 地区



C 地区



第15图 出土遺物実測図 (1/4)

報告書 番号	登録 番号	器 種	遺 構 出土位置	最大長 口 径 (cm)	最大幅 器 高 (cm)	最大厚 そ の 他 (cm)	調整技法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	残 存	備 考
1	00502	縄文土器 深鉢	Q11 包	-	-	-	外：ナデ→口縁部ヨコナデ 内：ナデ	やや粗（～3mmの砂粒含む）	-	内外両面：暗灰黄 2.5Y5/2	-	
2	00501	縄文土器 浅鉢	A地区 表土	-	-	-	外：口縁部ヨコナデ 内：ナデ→コビオサエ	やや粗（～2mmの砂粒含む）	-	内外両面：にぶい橙 7.5YR7/4	-	縄文
3	00407	縄文土器	A地区 表土	-	-	-	外：口縁部ヨコナデ 内：ナデ	やや密（～1mmの砂粒含む）	-	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい橙7.5YR7/4	-	沈線・縄文
4	00404	縄文土器 深鉢	Y6 包	-	-	-	外：ミガキ→口縁部ヨコナデ 内：ナデ	やや粗（～3mmの砂粒含む）	-	外：暗灰黄2.5Y5/2 内：灰黄2.5Y7/2	-	キザミ・沈線
5	00507	縄文土器 注口土器 深鉢	A地区 表土	-	-	底径 10.0	外：底部？ 内：工具によるナデ？	やや粗（～0.5mmの金雲母 多く含む）	-	外：にぶい橙7.5YR7/3 内：浅黄2.5Y7/3	底部 2/12残	
6	00505	縄文土器 深鉢	W8 包	-	-	底径 12.0	外：ヨコナデ→ナデ 内：工具によるナデ	やや粗（～3mmの砂粒金雲 母含む）	-	内外両面：にぶい黄橙 10YR6/3	底部 1/12残	底部アジロ痕
7	00509	縄文土器 注口土器	A地区 表土	-	-	-	外：ミガキ？ 内：工具によるナデ	やや粗（～1mmの砂粒長石 多く含む）	-	内外両面：灰黄褐 10YR5/2	-	
8	00405	縄文土器 突帯文土器	X3 SK33	-	-	-	外：口縁部ヨコナデ 内：ナデ	やや粗（～1mmの砂粒多く 含む）	-	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：灰黄2.5Y7/2	-	キザミ・突帯剥離
9	00508	縄文土器 深鉢	R13 P1t1	-	-	-	外：底部ナデ→ナデ 内：？	やや粗（～1mmの砂粒多く 含む）	-	内外両面：にぶい黄橙 10YR6/3	-	
10	00402	縄文土器 深鉢	T10 SK26	-	-	-	外：ミガキ→口縁部ヨコナデ 内：ミガキ	やや密（～1mmの砂粒含む）	-	外：にぶい黄橙10YR7/2 内：褐灰10YR5/1	-	キザミ・沈線・縄文
11	00504	縄文土器 深鉢	A地区 SK26	-	-	底径 9.4	外：底部ナデ→ヨコナデ→ナデ 内：ナデ？	粗（～1mmの砂粒多く含む）	-	内外両面：にぶい橙 7.5YR7/4	底部 3/12残	風化著しい・取り上げNo. 5
12	00503	縄文土器 深鉢	S11・T11 SK27	-	-	底径 11.0	外：ヨコナデ 内：ナデ	やや粗（～1mmの砂粒金雲 母含む）	-	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：灰黄褐10YR5/2	底部 4/12残	底部アジロ痕
13	00506	弥生土器 壺？	A地区 表土	-	-	底径 6.0	外：底部ケズリ→ナデ→ミガ キ 内：ナデ→工具によるナデ？	密	-	外：灰黄褐10YR6/2 内：にぶい褐7.5YR6/3	底部 2/12残	
14	00203	ロクロ土器 椀	B地区 H30 包	-	-	底径 4.6	ロクロナデ→糸切痕	密（金雲母少し含む）	-	内外両面：にぶい橙 7.5YR6/4	底部 12/12残	
15	00304	陶器 椀 (山茶椀)	B地区 J32 包	-	-	高台径 8.8	ナデ→高台部貼付後ナデ→糸 切後ナデ	密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白2.5Y8/1	高台部 3/12残	
16	00206	陶器 椀 (山茶椀)	B地区 F32-F33 SD43	-	-	高台径 8.0	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密（～1mmの砂粒少し 含む）	-	内外両面：灰白5Y7/1	高台部 2/12残	内面研磨・モミガラ痕
17	00301	陶器 椀 (山茶椀)	B地区 D30 SR45	-	-	高台径 7.1	ロクロナデ後ナデ→高台部貼 付後ナデ→糸切痕	密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰黄2.5Y7/2	高台部 3/12残	内面研磨・内面うすく自然 釉？
18	00302	陶器 椀 (山茶椀)	B地区 D30 SR45	-	-	高台径 8.8	ナデ→回転ナデ→高台部貼付 後ナデ→糸切痕	密（微砂粒含む）	良	内外両面：灰黄2.5Y7/2	高台部 4/12残	内面研磨・塊状のモミガラ 痕
19	00303	陶器 椀 (山茶椀)	B地区 J31-K32-K33 SD51	-	-	高台径 8.5	回転ナデ→ナデ→高台部貼付 後ナデ→糸切痕	密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白5Y7/1	高台部 2/12残	
20	00307	灰釉陶器 皿	C地区 表土	13.3	3.9	高台径 6.2	回転ナデ→高台部貼付後ナ デ	密（～1.5mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰黄2.5Y7/2 ～2.5Y6/2	口縁部1/12以下 高台部3/12残	施釉（漬け掛け）
21	00204	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 表土	-	-	高台径 9.2	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白5Y7/1	高台部 3/12残	内面研磨
22	00202	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 表土	-	-	高台径 8.0	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切？	やや密（～1mmの砂粒含む）	不良	外：にぶい黄橙10YR7/2 内：灰黄2.5Y7/2	高台部 5/12残	内面研磨・モミガラ痕多 数
23	00201	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 表土	-	-	高台径 7.8	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや粗（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白2.5Y8/1	高台部 7/12残	モミガラ痕
24	00105	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 北 重機 表土	16.0	-	-	ロクロナデ	密（～0.5mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白2.5Y7/1	口縁部 2/12残	
25	00101	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 北 重機 黒色土	15.0	5.4	高台径 7.6	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密	良	内外両面：灰白5Y7/1	口縁部2/12残 高台部8/12残	内面研磨・モミガラ痕多 数
26	00106	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 表土	16.8	4.4	高台径 8.8	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白5Y7/1	口縁部3/12残 高台部9/12残	内面研磨・モミガラ痕多 数
27	00306	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 V61 包	-	-	高台径 7.6	ナデ→高台部貼付後ナデ→糸 切痕	密（～1.5mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白2.5Y7/1	高台部 3/12残	
28	00305	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 V61 包	-	-	高台径 8.6	回転ナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	密（～1mmの砂粒含む）	良	外：灰白5Y6/1 内：灰黄2.5Y7/2	高台部 3/12残	
29	00308	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 V61 包	16.8	5.5	高台径 7.7	回転ナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	密（～1mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白2.5Y7/1	口縁部2/12残 高台部3/12残	内面灰かぶり・スス付着
30	00406	縄文土器	C地区 K58 SK33	-	-	-	外：スリケン 内：ナデ	やや粗（～1mmの砂粒多く 含む）	-	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい橙7.5YR7/3	-	沈線・縄文
31	00401	縄文土器 深鉢	C地区 K58 SK33	-	-	-	外：ナデ→口縁部ナデ 内：ナデ	やや密（～1mmの砂粒金雲 母含む）	-	外：灰黄褐10YR6/2 内：にぶい黄橙10YR7/3	-	沈線
32	00403	縄文土器	C地区 L58 P1t2	-	-	-	外：突帯貼付後ナデ→口縁部 ヨコナデ 内：ミガキ	やや粗（～2mmの砂粒多く 含む）	-	外：橙5YR6/6 内：にぶい黄橙10YR6/3	-	貼付突帯文・条痕
33	00102	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 059 SK35	16.0	4.3	高台径 8.4	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密（～1mmの砂粒少し 含む）	良	外：灰5Y6/1 内：灰黄2.5Y6/2	口縁部3/12残 高台部6/12残	内面研磨・底部外面墨書
34	00103	陶器 皿 (山皿)	C地区 Q60 SD38	11.0	3.4	高台径 6.2	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切痕	やや密（～1mmの砂粒含む）	良	外：灰白7.5Y7/1 内：灰白2.5Y7/1	口縁部11/12残 高台部10/12残	内面自然釉
35	00104	陶器 皿 (山皿)	C地区 N58 P1t1	8.5	1.9	底径 4.8	ロクロナデ→ナデ→糸切痕	密（～0.5mmの砂粒含む）	良	内外両面：灰白7.5Y7/1	口縁部11/12残 底部12/12残	口縁部ゆがみ
36	00205	陶器 椀 (山茶椀)	C地区 V61 P1t1	-	-	高台径 7.6	ロクロナデ→高台部貼付後ナ デ→糸切後ナデ？	やや密（～1mmの砂粒含む）	良	外：灰白2.5Y7/1 内：灰白5Y7/1	高台部 5/12残	内面研磨・墨書・重ね焼 き痕・モミガラ痕多数

第2表 遺物観察表

V まとめ

今回の調査では、縄文時代後期の土坑、鎌倉時代の掘立柱建物・土坑、江戸時代の素掘溝を確認した。大久保遺跡の第1次調査に引き続いてほぼ同様の時期の遺構が確認できたことは、大久保遺跡の広がりや内容を考える上で重要である。今回確認した遺構について、時代ごとに考察を述べてまとめたい。

1 縄文時代

調査によって検出した縄文時代後期中葉の土坑（SK26・27・28）は浅く、窪んでいる様な遺構である。平面形が不定形なものが多く、規模も一律でない。遺物は、その埋土内から縄文土器口縁部から体部片、底部（10～12）が出土している。これらの土坑は、堅穴住居の残骸的な遺構の可能性が高い。土坑を堅穴住居の一部として捉えるならば、大久保遺跡は、1～2棟程度の小規模な集落跡と考えることができよう。

菰野町周辺の縄文時代の遺跡は、西江野A・B遺跡をはじめとして草創期に遡るものがある。今後、周辺域の発掘調査の結果、縄文時代の大規模な集落を確認することができる可能性があるだろう。

そして、出土した縄文土器は大きく後期中葉のものと晩期後葉のものに分けることができる。後期のものは、西日本の北白川上層3式や東日本の堀之内2式のものである。晩期後葉のものは突帯文土器である。

出土した縄文時代後期中葉の土器は、西日本のものから東日本のものまで含む様相である。内容からすると東西日本の文化の結节点的な要素を含む遺跡である可能性が高いのではなかろうか。

また、この時期の集落のなかで小規模なことを考慮すると本遺跡はキャンプサイト的な遺跡であろうと推測できるのではなかろうか。

さらに晩期の突帯文土器が出土している。土器の時期は、晩期後葉の馬見塚式である。周辺域での馬見塚式が出土している遺跡には、東員町山田遺跡、四日市市土丹遺跡がある。馬見塚式土器の北勢地域での出土遺跡の分布状況は、閑散としてまばらな状

況である。晩期後葉の時期では、集落が周辺部というよりは東側の伊勢湾岸方向に拡散していった可能性があるだろう。

2 鎌倉時代

この時代の遺構としては、掘立柱建物SB59の1棟を確認した。建物の規模は2間×2間で北西方向に1間の庇を持つ側柱建物である。

建物は、主屋や副屋と考えるには、小規模なものである。また、建物の周辺部ではこの時期の遺構を確認できていないことを考えると集落の中心部からはずれてポツンと存在するものとみられる。この建物は、小堂や社といった建物と想定することになるのか。

かつて第1次調査では、鎌倉時代の掘立柱建物をはじめ溝・土坑などが確認されており、この時代の遺跡の集落の中心地は、国道306号側の地域と推測でき、今回の調査地は、鎌倉時代の集落の周辺部として捉えることができよう。

3 江戸時代

A・B・C地区において素掘溝を数条、確認した。溝の規模は、どれも幅0.2～0.4m前後で深さ0.1～0.5mと溝底は、アップダウンがある。溝が同一方向に揃えて掘削されていることや溝の延長を考えるとこの時代の地割に沿った形で耕作が行われていたと考えてよいのではなかろうか。これらの溝は、畑地の畝と判断できそうである。（萩原義彦）

【註】

- ①東員町教育委員会「山田遺跡発掘調査報告―縄文時代編―」（1991年）
- ②四日市市「四日市市史 第2巻 史料篇考古I」（1988年）

【参考文献】

- 菰野町教育委員会「大久保遺跡発掘ニュースNo.1・2」（1982・1983年）
菰野町教育委員会「大久保遺跡現地説明会資料」（1983年）

写真図版



C地区表土掘削風景（北東から）

写真図版 1



A地区調査前風景（北東から）



A地区調査前風景（南西から）



C地区調査前風景（北から）



C地区調査前風景（南から）

写真図版 3



A地区完掘状況（南西から）



A地区完掘状況（北東から）



B地区完掘状況（南から）



B地区完掘状況（北東から）

写真図版 5



B地区完掘状況（西から）



B地区完掘状況（北東から）



A地区作業風景（南東から）

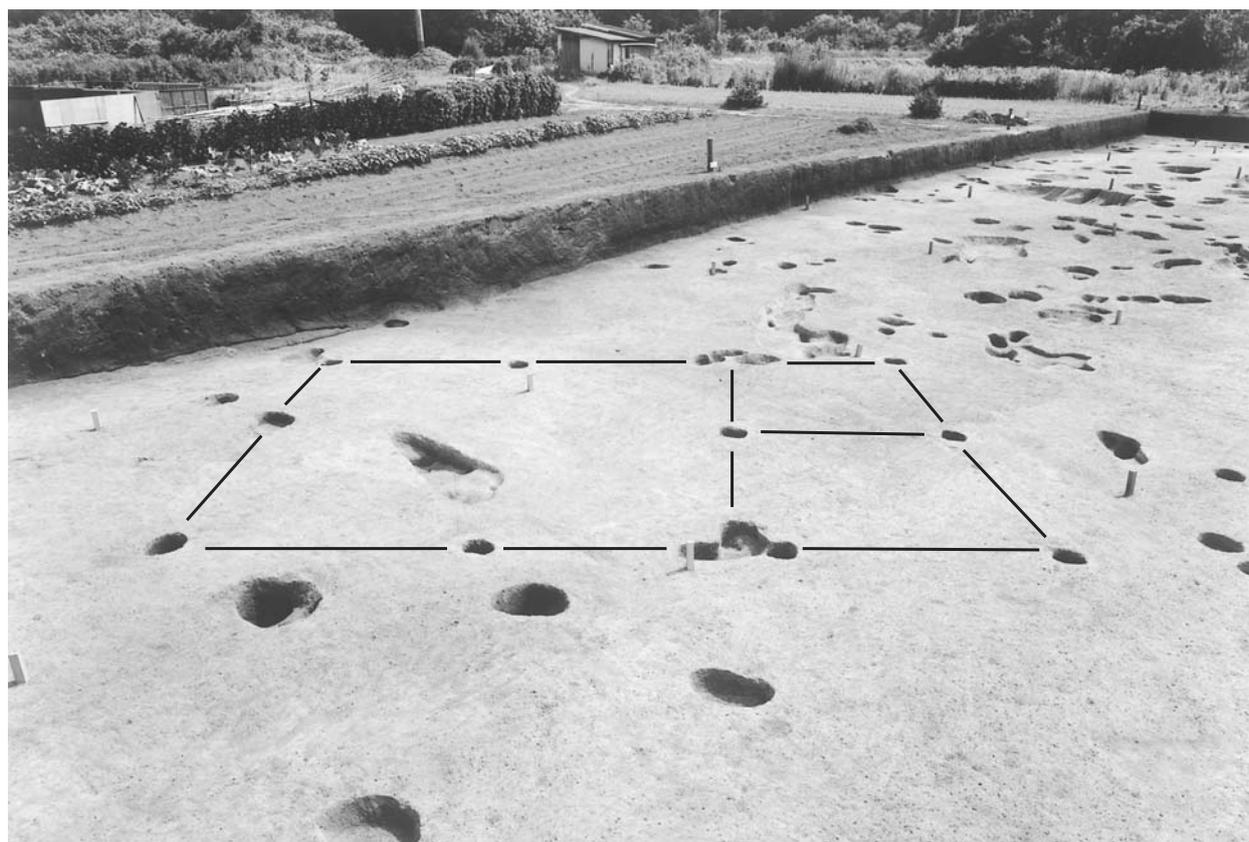


C地区完掘状況（南東から）



C地区完掘状況（北西から）

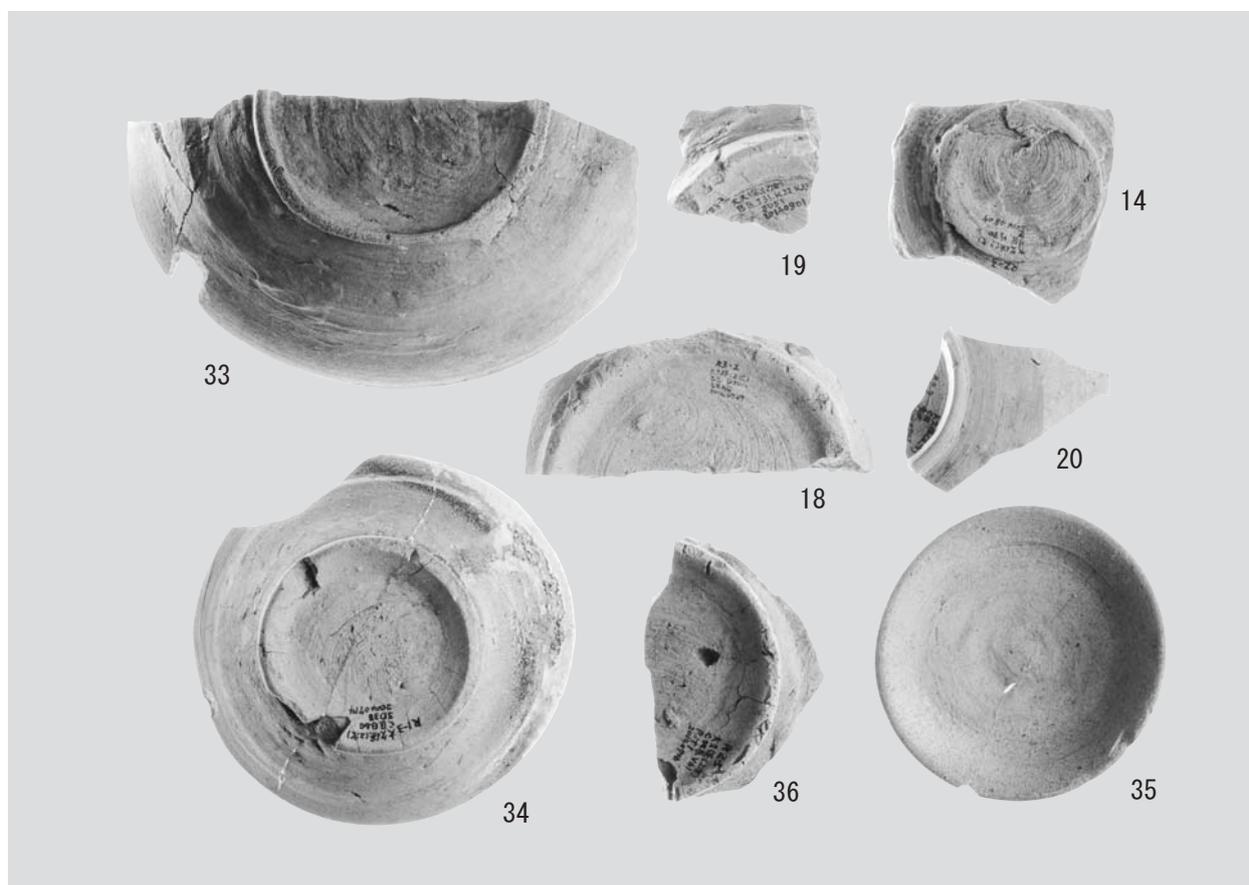
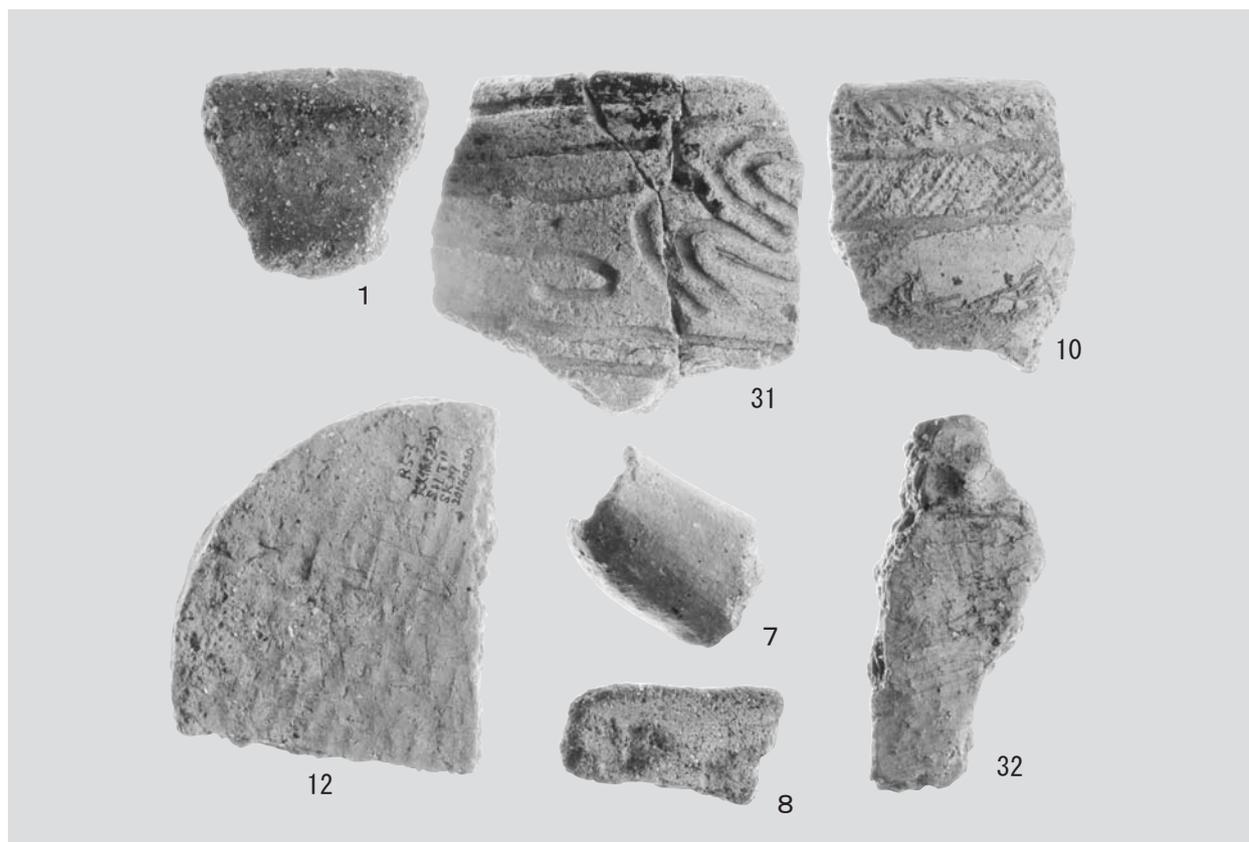
写真図版 7



掘立柱建物S B59 完掘状況（北東から）



土坑S K57 半裁状況（南から）



報告書抄録

ふりがな	おおくほいせき (だい2じ) はくつちようさほうこく							
書名	大久保遺跡 (第2次) 発掘調査報告							
副書名	三重郡菰野町潤田所在							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	367							
編著者名	萩原義彦・伊藤亘							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 Tel 0596-52-1732							
発行年月日	大久保遺跡 (第2次) 発掘調査報告							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおくほいせき 大久保遺跡 (第2次)	みえけんみえぐんこものちよう 三重県三重郡菰野町 うるだ 潤田	24341	85	35° 01' 34"	136° 30' 24"	2014/5/16) 2014/9/16	2,445m ²	平成26年度国道 477号四日市湯 の山道路整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
大久保遺跡 (第2次)	集落跡	縄文時代・ 鎌倉時代・ 江戸時代	掘立柱建物・土坑・ 溝	縄文土器・灰釉陶器・ 陶器碗 (山茶碗)・ 陶器皿 (山皿)				
要 旨	大久保遺跡では、縄文時代の土坑、鎌倉時代の掘立柱建物、江戸時代の素掘溝が確認された。こうした発掘調査の成果から本遺跡は、縄文・鎌倉時代の集落跡と考えられる。また、江戸時代は素掘溝が確認できたことから生産地域であったと想定できる。遺物では縄文土器をはじめとし陶器碗・皿が出土している。							

三重県埋蔵文化財調査報告367

大久保遺跡 (第2次) 発掘調査報告

～三重郡菰野町潤田所在～

2016 (平成28) 年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター